

クルマの達人

Series Kuruma no Tatsujin

Text/山口宗久 www.yamaguchi-munehisa.com/ Photo/橋本 玲

●PROFILE●

工業高校を卒業後、国産車ディーラーにメカニックとして就職
仕事以外の時間に、部品を分解するのが楽しくて仕方ないほどの知りたがり屋は
戦前のクラシックカーまで含む古いクルマをレストアする工場へ転職
貴重な経験を積んだ10年を経て、'96年にプレジャーを興し独立した、46歳



「今、ハマっているのはコンピュータ
最新のクルマの考えを知るのが楽しいよ」

●クラシックカーを直す技で最新のクルマを診る達人/栗木正視さん



▲作業場の奥にフォードのクラシックカーがあった。隣では10年ほど前のM・ベンツSクラスが修理を受けている。機械だけの1台と、複雑な電子制御の洗礼を受けた1台が並ぶ



▲コンピュータ診断機は、この棚以外にも何機もある。電子制御のロジックに嫌悪感を抱き続けるか楽しむかで、メカニックとしての存在価値は変わっていくだろうと栗木さん



▲金属の塊とアナログな動きをする部品が転がっているのを見ると、妙に安心する。コンピュータが理解できても、機械の心得がなければもちろんクルマは直せない

クルマというよりは機械が好きなんだね

会話の内容が一つのところに定まらず、目が回りそうだった。戦前のクラシックカーの素晴らしさを口にしていたかと思えば、これが面白いんだと見せてくれたのは最新のコンピュータ診断システム。なるほどねとうなずいていると、ところで戦時中の戦闘機のエンジンは、実に勉強になるという話題にワープする。栗木さんがいちばん取りつかれているものは、一体何なんだろう。まずそれが知りたい。

「うーん、なんだろうね。でも、機械好きだよ。直すのが好き。中学校の時に面白がって自転車組み立てたりしてたこととか、よく覚えてるよね。フレームに色塗ったりして、なんか部品までバラバラにして、また組み立てるのが好きだった。高校の時はバイク、興味をもつ視点としては、順当だよ。でも高級なバイクを買って、眺めたり、時々乗ったりとか、そういうことにはちっとも興味がなかった。家の前でバラバラに分解したら、通りがかったお巡りに、おい何やってるんだって言われてさ。どっかから持ってきちゃったんじゃないかって疑われたわけ。バイクっていうのは、こういうふうに分けて整備しなきゃダメなんだって言ったら、ふーんそうなんだ、だって。

ハマるのよ、なんか自分でもわからないけど、凝っちゃうとすごいよ。乗ることにはロクに興味もないくせに、その頃バイク、5台もってた。覚えたい欲、っていうのかなあ。どうなってるんだろうっ

て考え始めると、答えを見つけて納得できるまで、どうにもならなくなっちゃう。その頃から、ずっとそうだから」

工業高校を卒業して、国産車のディーラーでメカニックとして働き始めてからも、やっぱり栗木さんは同じだった。「働き始めた頃なんて、整備も何もやらせてくれないでしょ。すぐつまらなかったんだけど、ある時ゴミ箱に壊れた部品がいっぱい捨ててあるのに気がついたわけ。就業時間が終わってからゴミ箱あさりだよ。今日はステアリングギアボックスが捨ててあったなんて、喜んで拾ってきては、夜な夜な分解して遊んでいたよ。

でもね、いっぱい知識を詰め込んで、将来独立して自分の工場を始めるんだとか、そういう気持ちはまるでなかった。とにかく、早く覚えたい。ほんと、その一点だけだったんだ」

一台のクルマをねじ一本の単位まで分解して、もう一度完全な形で組み上げるレストアという仕事をやってみたいと思い始めたのは、約7年かけて何社かのディーラーでの仕事を経験した頃だった。

「不思議な巡り合わせで誘われて、ある資産家のコレクションを端からレストアするような工場にメカニックをやることになったんだよね。資料もろくに手に入らないような戦前の珍しいクルマやら、戦時中の飛行機やら、手探りで直していくような機械を毎日いじれるようになってね。そりゃ楽しかったよ。手探りだったって、むやみにいじってたってどうにも

ならないからね。目の前にある現物を見ながら、どういう仕組みで動くんだろうとか、どうやって直せばいちばんいい状態に復元できるんだろうとか、来る日も来る日もそんな感じ。知りたいっていう欲求を満たしながらね」

96年にブレゲーを興して独立するまでの10年間、栗木さんはそこでの仕事で、機械の奥深さと楽しさを目一杯身につけることになったのだ。

電子の仕組みをひもどく機械の修理と同じだよ

栗木さんの工場は、クラシックカーを専門に扱うわけではない。それどころか、多くの町の整備工場が嫌がる2000年代の新しいクルマも入庫してくる。

「関係ないよね、機械だし。一応、輸入車だけ診ますっていうことにしてるんだけど、新しいからできませんっていうことはないよ。同じだよ、機械だから。

もともとクラシックカー専門じゃ食べていけないからっていうところもあるんだけど、コンピュータ制御が複雑になっている最近のクルマを診るには、それなりの用意や勉強もしなきゃいけないわけ。新しいクルマはダメっていうところは、最新の電子制御が得意じゃないんだろうけど、オレはそういうの苦にならないどころか、楽しいって思うほうだ

から。今いちばんハマってるのは、コンピュータだよ。これ見てみてよ、凄いんだよ」

そう言って見せてくれた最新のコンピュータ診断機。

「あのね、例えば新しいタイプのベンツとかは、ブレーキパッド交換するだけでも、このシステムを使わなきゃならないわけ。きちんとクルマ側のコンピュータと通信しておかなきゃ、キャリパーのピストンが飛び出してきちゃってどうにもならないからね。どうして新しいクルマはそんなことになってるんだよ、なんて言ったら始まらないじゃない。時代は変わってきてるし、クルマも変わってきてるわけ。オレは、面白いと思うよ。このクルマ、一体なにを考えているんだろうって、コンピュータの端末叩きながら推理していくのって、鉄の塊分解して直す作業と同じだからさ」

今のクルマが昔のクルマのように、何十年も走り続けているかどうかはわからない。時代はクルマにそういう価値を求めなくなっているから、作りも正しく簡素で安価になってきて当たり前。ざりとそう言っただけの栗木さんは、でも、だから最近のクルマが直してつまらないなんて理解できないとも。好奇心旺盛なまよ約30年、メカニックという仕事を楽しみ続ける栗木さんなのである。

SHOP DATA



戦前～最新モデルまで輸入車の修理全般

●ブレゲー

クラシックカーをレストアしてきた腕で、コンピュータ診断機がなければ直せないような最新のクルマも引き受けてくれる

横浜市都筑区大熊町210

☎ 045-476-1868

http://www.breguet.tv/

☎ 9:00～18:00 ☎ 日曜、祝日